

三菱自動車が技術支援する「チーム三菱ラリーアート」がアジアクロスカントリーラリー2023に新型『トライトン』で連覇に向けて発進

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長兼最高経営責任者：加藤 隆雄、以下三菱自動車）が技術支援する「チーム三菱ラリーアート」は、8月13日から19日までタイ及びラオスで開催されるアジアクロスカントリーラリー（以下、AXCR）の2023年大会に新型『トライトン』（T1仕様=改造クロスカントリー車両）の3台体制で参戦します。

同チームは大会初日となる13日、タイ南部のリゾート地パタヤでセレモニアルスタートを行い、翌14日からはタイ南東部をカンボジア国境に沿うように東へ進み、19日にラオスの世界遺産であるプレーサート・ワット・プー近郊のゴールを目指します。



チーム三菱ラリーアート

「チーム三菱ラリーアート」は開幕に先立ち、8月10日（木）タイのチョンブリ県シラチャにあるミツビシ・モーターズ（タイランド）・カンパニー・リミテッド（MMTh）のテストコースでAXCR本番に臨む新型『トライトン』のシェイクダウンを実施しました。昨年と異なり、今年は雨季である8月に開催されるため、ぬかるんだ泥道や川渡りなど従来のAXCRらしい難コースが予想されます。「チーム三菱ラリーアート」はこれに対応すべく、国内外で2回にわたり合計約2,000kmに及ぶ耐久試験を実施し、新型『トライトン』の信頼性・耐久性を確認しながら、エンジンや足回りを最終調整して力強い走りや軽快なハンドリングを実現。今回のシェイクダウンでは、これらが狙い通りに仕上がっていることを確認しました。

AXCRに出場する四輪部門41台、二輪部門21台、サイドカー部門1台の合計63台は、8月13日にパタヤのウォーキングストリートでセレモニアルスタートを実施し、翌14日のレグ1から本格的なラリーをスタートします。16日レグ3のゴールであるウボンラーチャターニーまで、ぬかるんだマッドコースや岩屑が積み重なるような険しい道を駆け抜けます。17日のレグ4ではタイとラオスの国境を越え、同日からラオスを走行。木々が生い茂る高原エリアや水田地域を駆るコースが想定されるラオスですが、雨量の多い南部に位置するため、スコールによるさらなるコース悪化も予想されます。そして19日のレグ6に、世界遺産であるプレーサート・ワット・プー近郊でゴールを迎えます。

チーム三菱ラリーアート総監督、増岡浩のコメント

「総監督としてチームを勝利に導くために、これまでラリーで培ってきたノウハウを活かし、チーム体制を整えながら、ラリーカーを仕上げてきました。新型『トライトン』はベース車両のレベルアップもさることながら、昨年の参戦結果を踏まえ、さらに速く・強く・壊れないクルマに仕上げ、シェイクダウンでもその十分な仕上がりを確認しました。チームを支えるサービス体制もしっかり作り込み、ドライバー、コ・ドライバーが持てる力を100%発揮できるよう、メンタル面もサポートしています。チーム全体がタフな挑戦に向けて準備万端です。連覇を目指して全力を尽くします。」

[AXCR スペシャルサイトでデイリーレポートを配信]

三菱自動車では、8月13日（日）の大会初日から19日（土）の最終レグまで、最新のデイリーレポートを同社のAXCRスペシャルサイトで紹介します。

<https://www.mitsubishi-motors.com/jp/innovation/motorsports/axcr2023/>

以上